



病棟紹介⑨

6階西病棟

(消化器内科)

6階西病棟は消化器内科50床の病棟です

消化器内科は食道から大腸までの消化管と、胆のう、膵臓、肝臓などの治療を行います。消化器と言うと皆さん馴染みが多いと思います。胃が重いと感じたり、食事の前後に痛みを感じる、吐き気、嘔吐、下痢が止まらずおなかが痛い・・・などで受診されるかたが多いと思います。消化管の病気は胃カメラや大腸内視鏡検査を行い、実際の消化管の中を覗いて病気を探ります。

また、胆石も皆さんの耳には馴染みがあると思います。急激な腹痛と嘔吐、時に39度近い発熱などで検査をして胆管炎、胆のう炎の病名で入院される方がいらっしゃいます。こうした病気の場合、多くは内視鏡を使って胆石を除去したり、胆管を広げたりする治療を行いますが、外科的な処置が必要な場合は、外科病棟に手術目的で移動していただくこともあります。

また、化学療法や放射線治療、肝臓に関してはラジオ波を行っています。今までは手術室の看護師がラジオ波治療の介助を行っていましたが、今年10月から全てのラジオ波治療を病棟スタッフが介助することとなりました。患者様への声掛けや観察、治療の援助を病棟スタッフが行うことで、処置や治療、病状などを今まで以上に理解することができ、日々の看護につながれると考えています。



患者様ごとの薬や点滴剤を用意する
ミキシングという業務です。



天気がよく風のある日には病棟の廊下の端から遠く富士山が望めます。他病棟ではなかなか見ることのできない、高層階だけの特権です。患者様と一緒に富士山を眺めることもあります。

当病棟に入院された患者様へは、安心・安全な看護の提供を心掛け、医師や他職種との連携を保ち、一人一人に合った看護が出来るよう努めていきたいと考えています。



夕方の勤務交代時の引き継ぎ風景です。



手術室でのラジオ波治療を介助します。

6階西病棟看護師長：岡村 和代